

発行 宮城県こもれびの森 森林科学館  
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330  
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



## イベント報告 -ウッドランドクラブ6月-

### ～小さな生き物探しと工作を楽しもう～

6月のウッドランドクラブは、園内の水生生物や昆虫などの小さな生き物を観察しました。

子供たちの参加が目立ち、池や小川、湿性植物園にいる「小さな生き物」に興味津々の様子でした。メインはやはり「カブト虫」の幼虫探しでした。土を掘って幼虫が見つかるたびに、大きな歓声が上がりました。

幼虫は持ち帰り、成虫になるまで大切に育てることを約束しました。



＜カブト虫の幼虫探し＞

### ～藍染めを楽しみましょう～

7月2日(日)は、今年度、第1回目の「藍染め」でした。

藍染めのファンが集まり、思い思いの作品に挑戦しました。科学館前の草木川は水量も豊富で、しっかり洗い流すことができます。参加された方々は、何度も洗い流して藍色を出すことができました。

今年は8月19日(土)、9月3日(日)も藍染めを予定しています。参加をお待ちしております。



＜草木川でさらす!!＞

## こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで  
専属ことりカメラマン(?)の  
大友さんのコーナーです

- ①アオゲラの動きが活発です。②強い日差しの中でオオルリ  
サクランボを食べているよう  
が盛んにさえずっています。



＜①アオゲラのオス＞



＜②オオルリのオス＞

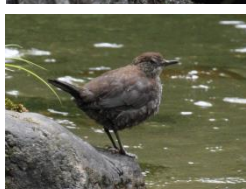
- ③ノジコがわずかに残っている  
実を食べに来ました。

＜③ノジコのオス＞



- ④巣立って2か月のカワガラス  
です。胸から腹に白い部分が  
目立ちます。(大友)

＜④カワガラスの幼鳥＞



## 生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

### 残酷な遊びに・・・

この時期になるとヨロヨロとおぼつかない飛び方をする蝶？を見かける。これは昼光性の蛾で「カノコガ」という。名前の由来は鹿の子模様からきている。低いところをゆっくりと飛びながら小生が子供の頃は、両手でパンと押しつぶしたり、友達の服に押し付けたりした。翅の鱗粉の模様が判子で押しつぶしたように手のひらや服につくので「ハンコチョウ!ハンコチョウ!」と呼んで遊んだ。

今思うに、昔はカノコガも身近な遊び道具のひとつだった。近年、カノコガを見かけるたび、平気で殺傷して遊んだことに反省しきりの思いである。(は)



＜カノコガのメス  
(腹が太い)＞



＜カノコガの交尾  
(上がオス)＞

## まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

### ～「マタタビ」と「キュウイフルーツ」(マタタビ科)～

「ネコにマタタビ」ということわざがあります。非常に好きなものの例えでよく用います。マタタビには「マタタビラクトン」という、ネコの脳をマヒさせ陶酔状態にさせる物質が含まれています。ゴロニャン状態になったり、急に大暴れるネコもいます。人間で言えば、麻薬か酒のようなものではないでしょうか。ちなみにトラ、ヒョウなどのネコ科の動物も同じ反応をするそうです。

さて、キュウイは中国原産ですが、特に野生種のキュウイには「ネコにマタタビ」と同じような効果が見られます。根を掘り起こしたりしているとノラ猫が寄ってきて、ゴロニャン状態になります。キュウイもマタタビ科で、「マタタビ」と同じ仲間であるためです。

山野で見かける「マタタビ」とフルーツの代表のようなキュウイは、同じ仲間というイメージがわきにくいのですが、「マタタビ」の実を2つに輪切りにすると納得です。キュウイとそっくりの断面が見られます。味もマズマズ似ています。

マタタビの実を輪切りにして食べてみてはどうでしょうか・・・。(千葉)



＜輪切りにした  
マタタビの果実＞

## 科学館情報

### 草木川

科学館の前を県道249号線沿いに流れる草木川は、溪流の名にふさわしい川です。子供たちの川遊びや染め物教室で利用しますが、9日、この川を会場にイワナの溪流釣り大会がおこなわれました。内陸地震後、10年ぶりの大会ということです。溪流釣りの他にも、新緑、あるいは紅葉の草木川も魅力的です。ご来館の折に、ぜひ草木川に足を運んでいただければと思います。



＜新緑の草木川＞